

令和4年8月16日

瀬戸市議会議長 水野良一 様

住所 瀬戸市 [REDACTED]

氏名 瀬戸子ども笑顔の会 [REDACTED]

連絡先 [REDACTED]

マスク着用に関する陳情

1. 陳情の趣旨

2020年1月から広まった、最初は未知だった新型コロナですが、もう2年も経ちました。今だに当初と同じ対策を取り続けていますが、第7波の感染爆発が起きています。マスクによる感染予防効果があるとは思えません。咳が出ている人がマスクをすることには意味がありますが、元気な人がマスクをするのは、意味がないどころか、弊害しかありません。熱中症はもちろん、長時間マスクをすることによる酸欠、体調不良、人の表情が読めない等、特に子どもに取っての弊害が大きすぎます。厚生労働省によると、室内でもマスクが必要ない場合があります。子ども達がほとんどしゃべらない授業など、マスクは外すよう指導するべきではないでしょうか？マスクのない伸び伸びとした普段の生活を子ども達に取り戻してあげたいと考えています。その子ども達のお手本になる為に、マスクの弊害を周知し、大人もマスクを取り、皆が新型コロナが始まる前の生活に戻れるよう、市から発信していただけたら嬉しいと思っております。

2. 陳情事項

- ①マスクによる弊害を大人に知ってもらい、マスクが当たり前になってしまった日常から、新型コロナが始まる前の生活に戻れるよう働きかけていただきたいです。
- ②健やかに成長すべき子ども達の為に、一刻も早くマスクによる弊害を取り除いてあげたいです。子ども達が長時間過ごす学校生活において、マスク着用の緩和指導を速やかに行っていただきたいです。

参考資料2枚あり





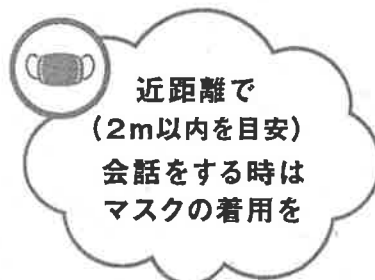
熱中症予防 × コロナ感染防止

熱中症を防ぐために

屋外ではマスクをはずしましょう

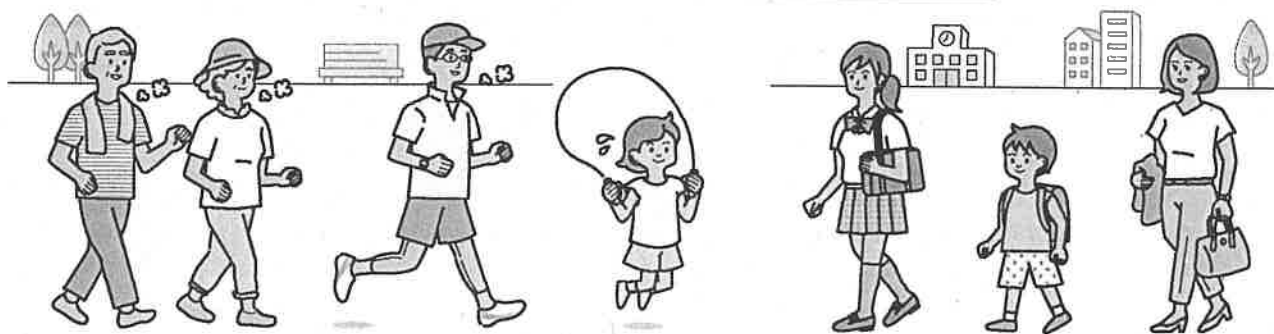
屋外ではマスク着用により、熱中症のリスクが高まります

特に運動時には、忘れずにマスクをはずしましょう



屋外での散歩やランニング、通勤、通学等も

マスクの着用は必要ありません



屋内でも
マスクが必要ない
場合があります

- ・人との距離（2m以上を目安）が確保できて、会話をほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要はありません。
- ・マスクを着用する場合でも、屋内で熱中症のリスクが高い場合には、エアコンや扇風機、換気により、温度や湿度を調整して暑さを避け、こまめに水分補給をしましょう。



マスク着用による身体への影響

現場医師からの提言



・マスクをすることで酸素欠乏や熱中症の危険性が高まります

マスクをして生活している人は、頭痛・めまいや視力低下・集中力低下という症状を良く訴えます。マスクをして呼吸をするということは、自分の吐いた息を吸っていることになります。人は、約21%の酸素濃度の空気を吸い込み（吸気）、肺で酸素を体内に取り込んで約15%の酸素濃度の空気を吐き出します（呼気）。酸素欠乏状態は、通常、16%の酸素濃度を吸い始めると自覚症状が現れ、低濃度になるほど症状は重くなり、10%以下で死の危険が生じてくると言われています。自分が吐いた空気は軽い酸素欠乏状態を引き起こす濃度ですので、酸素濃度が低下した空気を吸入し続けることにより、脈拍・呼吸数の増加、頭痛、吐き気、全身脱力、意識喪失などの症状が現れるようになります。長時間マスクをして生活することは、健康を害することに繋がることが考えられます。[\(https://mbp-japan.com/jijico/articles/32120/\)](https://mbp-japan.com/jijico/articles/32120/)

・子供の体温調節機構は大人とは異なります

子供の汗腺は未熟であるため、大人ほどに汗をかいて体温を下げるよう有効に働きません。

熱中症研究の第一人者で医学博士の早稲田大学人間科学学術院教授の永島計さんも「とにかく皆さんに注目してほしいのは、発汗する機能が子どもは非常に弱いということ。18歳以前は未発達と考えなくてはいけないのに、大人は自分の感覚で判断してしまう。水分補給によって大人と同じような予防効果が得られると勘違いしないでほしい。飲水は必要なことではあるが、過信すると大変なことになる」と警告しています。子供の熱中症は飲水では防げません。

子どもの体温調節の特徴

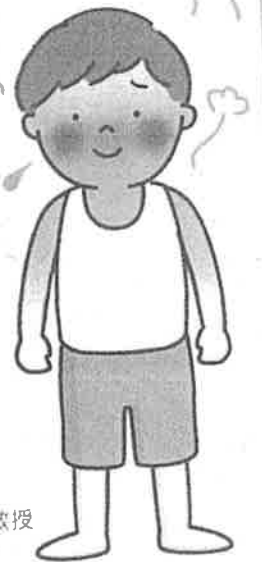
汗をかく機能が未発達
(思春期以降)に発達

汗の量が少なく熱を逃しにくい

皮膚への血流を増やして熱を逃す

顔などが赤くなりやすい

井上芳光 大阪国際大教授への取材をもとに作製



朝日新聞デジタルより引用

・マスクの着用は非常に危険です

中東遠総合医療センター小児循環器科部長は以下のように注意喚起しています。「人間は服を着ている場合、顔から熱を放散します。マスクをしていると半分位の作用が抑えられ、熱がこもりやすくなる。子供はもっと要注意。身体の割合で頭が大きい、大人に比べると。顔から熱を放散する作用があるけれど、マスクをすると表情を見にくいし、リスクが高くなると考えています」健全な子供にマスクを着用させることは、子供の命にかかわる非常に危険な事です。